

今回からは坂井先生が講演会で良く言う ICF のお話。坂井先生の言う「排除しない事」はこの観点から来ているのかもしれませんがね。環境因子と個人因子。坂井先生が話す難しい話も解りやすくなる。あ〜不思議だな。ソリヤソウでしょう。なんと坂井先生。この春から坂井“教授”になったのでしたっ！！おめでとございます〜♪

久田

第 56 回『わかるように伝えていますか』

コミュニケーションエイドと ICF ①

香川大学 坂井 聡

1. はじめに

今回からは、コミュニケーションエイドと ICF（国際生活機能分類）について考えてみたいと思います。WHO が ICF を公表して 10 年以上がたつのですが、ICF の考え方が、社会に浸透しているかというとそのようなことはないように思われます。

特にコミュニケーションの観点から考えてみると、自己決定や自己選択、自己実現のためには、ICF の考え方がとても大切だと思うのですが、障がいのある人のコミュニケーションを考えると、ICF が十分に議論され、評価され、活用されているかという、そのようなことはないように思われてなりません。そこで、今回からすこし、コミュニケーションエイドと ICF をテーマにして、いろいろ考えていきたいと思います。そして、重度の表出障がい等もつ人のコミュニケーションを考えると同時に、自己実現という点についても考えていきたいと思っています。

2. ICF から考える

国際的な障がいについての考え方は、2001 年に国際生活機能分類（ICF：International Classification of Functioning, Disability and Health）が採択されてから大きく変わったことは周知のことだと思います。それまでは、1980 年に世界保健機関（WHO）から示されていた国際障がい分類（ICIDH：International classification of impairment, Disability, handicap）に基づいて、障がいについて考えられていました。障がいからくる能力の低下や社会的な不利を軽減するために重要なこととして、「機能障がい」の改善が必要であると考えられていたのです。その結果、多くのリハビリテーション等の分野で、「機能障がい」の改善のための訓練が行われてきたのです。早期発見と療育により、その人のもっている「障がい」そのものに視点が当てられていたのです。その結果、訓練することが最も重要な課題となり、訓練のために、本人、家族、そして多くの専門家が時間を費やすことになったのです。そこには、障がいをもちながら今を生きていくという発想は乏しかったように思われます。

ICF では、人が生きていくために必要な機能全体を「生活機能」ととらえています。そして、「生活機能」は「健康状態」と「背景因子」との相互作用、あるいは複合的な関係と考えています。そのため、「背景因子」である「環境因子」や「個人因子」を考えることが重要になっているのです。

「背景因子」として「個人因子」に視点が当てられることは多いのではないかと思います。なぜかという、その人が参加できない原因や活動できない原因を、その人自身の個人因子には求めやすいからです。何かができないとき、「これができないのは、障がいがあるから仕方がない」と考えることは簡単で、納得しやすいからです。ですから、参加できない理由や活動できない原因を、「環境因子」に求めることはなかったのではないかと思います。「個人因子」に焦点が当たると、周囲にある環境をその人に合わせるという発想は乏しくなると考えられるからです。しかし、無理なものは無理です。できないものはできないのです。個人因子だけに活動できない原因や参加できない原因を求めるだけでは、解決できないものがたくさんあるということなのです。

コミュニケーション環境が整っていなければ、重度のコミュニケーション障がいのある人は、コミュニケーションがとれないままになってしまいます。「話しなさい」と言われても話すことができないからです。このように考えると、個人因子だけに視点を当てるだけでは限界があることがわかんと思います。そこで、コミュニケーション環境として参考になるのが AAC という考え方なのです。

坂井聡先生の紹介

（プロフィール）

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013 年より教授に就任。

（著書）

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための 10 のアイデア（エンパワメント研究所）など